

安曇野市観光振興ビジョン委員会  
第5回委員会議事概要(案)

- |             |  |
|-------------|--|
| 1 委員会名      | 第5回 安曇野市観光振興ビジョン策定検討委員会  |
| 2 日時        | 平成24年9月28日 午後 1時 30分から午後 4時まで  |
| 3 会場        | 穂高総合支所 大会議室  |
| 4 出席者       | 増田委員、川崎委員、櫻井委員、清水委員、松本委員、小岩井委員、太田委員、<br>加渡委員、上條委員、宮崎委員、下里委員(代理)、淺川委員、岡本委員、河崎委員 |
| 5 市側出席者     | 曾根原観光課長、高山係長、西山主査<br>受託事業者(交通公社)   |
| 6 公開・非公開の別  | 公開   |
| 7 傍聴人       | 2人、記者 0人   |
| 8 会議概要作成年月日 | 平成 24 年 10 月 4 日   |

- 会議事項
- 1 開会
  - 2 委員長挨拶
  - 3 議事
    - ① 安曇野の観光の理念/目標像、基本戦略と主要施策について
    - ② 重要テーマ(案)および具体的プロジェクトについて
  - 4 その他
  - 5 閉会

議事録(概要版)

① 安曇野の観光の理念/目標像、基本戦略と主要施策について

委員

- ・ コンセプト「わたしたちの『安曇野暮らし』をもっと輝かせよう！」は野暮ったいので、もう少しコピーらしく洗練させるべきではないか。
- ・ 「観光産業」という言葉は、市民がどのような印象で受け取るか。表現を変えるべきではないか。

委員

- ・ 資料 2-2 のイメージ図自体がこの形でいいのだろうか。また、各項目に表現されている文章は非常に重要であるため、もう一度委員で確認すべきではないか。
- ・ 「観光」という言葉は、「交流」「新たなコミュニティ」などではどうか。ただ、観光振興ビジョンであるため、「交流」ではなくもっといい言葉はないだろうか。

委員

- ・ 今回の委員会では、言葉の議論は置いて、本質の議論が必要ではないか。委員会は残り 2 回だが、ビジョンが見えない。

委員

- ・ 図の中心は「安曇野暮らしツーリズム」ではないか。資料 2-2 の図もこの構成でいいのではないか。

委員

- ・ 穂高駅で中高年夫婦の会話が聞こえたが「安曇野には何もない」と言っていた。せっかく来てくれた人の正直な印象か。
- ・ 資料 2-2 の中心が観光産業ではなく、明日の安曇野をつくっていくことではないか。

#### 委員

- ・ 資料 2-2 の中心は、「安曇野暮らし」ではないか。

#### 委員長

- ・ キャッチコピーはより洗練されたものになりたい。
- ・ 資料 2-2 については、観光産業が安曇野暮らしの下支えをするものであり、現状の表現のままでもいいのではないか。「観光産業」という言葉は別の表現にする。

### ② 重要テーマ(案)および具体的プロジェクトについて

#### 委員

- ・ ソフトの取り組みは、すでに安曇野市内でかなり始められているものがあり、自分たちはよくやっていると感じて認識した。

#### 委員

- ・ プロジェクトは総花的である。今後は、何を基準に優先順位を付けるのか。できることなのか、やらなくてはいけないことなのか。
- ・ 安曇野は、今はもうやるだけの時期に来ている。今やらなければいけないことはイメージとギャップの間を埋めることではないか。

#### 委員

- ・ おひさま御膳は好評であったが、期間限定であった。常時、豪華な食事を提供できるようにすることが必要ではないか。
- ・ 自転車の利用促進にあたっては、サイクルトレインを導入できないか。

#### 委員

- ・ 資料 2-2 の中心はやはり「安曇野暮らしツーリズム」で括れるのではないか。その方が具体的プロジェクトが通るだろう。
- ・ プロジェクト 5～6 の温泉については、療養・セラピー、医療施設との連携も考えられるだろう。
- ・ プロジェクト 7 省エネは、安曇野市のメインとなり得るのではないか。
- ・ プロジェクト 8 「農」には、里山という言葉も入れるべきではないか。

#### 委員

- ・ プロジェクト実施にあたってのタイムスケジュールを入れるべき。
- ・ 観光面での脱自動車は重要である。安曇野周遊バスは利用者に好評で、もう少しで大町と安曇野市がつながる。バスと自転車をリンクさせることも必要である。

#### 委員

- ・ 食のグレードを上げていく必要がある。県外客がどのような食事を求めるのか。現状では、県外向け、県内向けで区別して提供している。
- ・ 多くの登山客が来訪しているが、登山客はお風呂に入っていないため、入ってもらえる仕組みが必要ではないか。
- ・ 交通では点と点を結ぶことが必要である。宿泊施設が横で手をつないでバスを走らすことも考えられる。

- ・ 堀金の三股駐車場には多くの自動車が利用しており、60歳以上は車中泊をしているようだ。経済的な理由で宿泊にお金を使わない、または、1人で泊まりたいという傾向がでてきている。

#### 委員

- ・ 誰に対するプロジェクトなのか。住んでいる人、来た人、これから呼びたい人なのか。
- ・ 思い入れは入っているが現状の数値、宿泊業・観光事業者数等をしっかりと把握しているのか。委員会で認識を共有すべきではないか。
- ・ 「観光」という言葉がまだ整理されていないのではないか。
- ・ 安曇野では、「まず来てもらう」ということができていない。

#### 委員

- ・ プロジェクト7省エネルギーは、エネルギーだけではなく交通や緑化等、エネルギーに特化せず幅広く考えるべき。
- ・ 安曇野は移住希望者に非常に人気がある。移住を希望していても、移住できない人達が多くいるため、その方々に対応していくことも必要である。
- ・ 情報発信では、SNS等の新しいメディアを取り入れていくことが必要である。どう歩かせるかは、どう情報発信するかと連動している。観光案内板でも、横浜のようにインフォメーションと一体化したもののよう楽しめるサインストーリーが必要ではないか。
- ・ 推進体制が一番大切である。計画の後アクションプランや進捗状況を市民と一緒に検証していくことが必要である。

#### 委員

- ・ 今まで以上に農業体験に取り組み、全国に発信したい。

#### 委員

- ・ 名古屋城で1時間に1本でているガイド付きバスのようなものがあってもよい。
- ・ 豊科ICが安曇野ICに名称変更するが、駅の名前でも「安曇野」を前面に出してもよいのではないか。
- ・ 明科から安曇野が一望できるので、案内所とガイドが必要だろう。

#### 委員

- ・ 安曇野では、個々では取り組んでいるが、その取り組みがつながっておらず、情報発信ができていない。「安曇野暮らし」の魅力を他とどう違うのか、もっと掘り下げて発信することが必要である。
- ・ 埼玉県3DAYマーチの安曇野版を開催してはどうか。
- ・ 複合プロジェクトには「アート」を入れてもよいのでは？

#### 委員

- ・ 安曇野スタイルこそ、根を下ろした観光であり、ここから学ぶことが多い。
- ・ 信州人は連携が苦手であるが、連携こそが力を発揮する。
- ・ 山に関しての備えが薄いため、山に来るお客様をもっと大事にすべき。
- ・ 安曇野へのツアーの代金に、プラス1万円分のサービスを地元で用意して、提供するという取り組みも良いのではないか。

#### 委員

- ・ 具体的にキックオフで3DAYマーチみたいなことを取り組んではどうか。
- ・ 今後は観光協会HPも、安曇野暮らしをコンセプトとして情報発信していくことが必要である。

## 委員

- ・ 松川村、池田町も「歩く」に取り組んでいるため、連携してはどうか。
- ・ 誰に対して行うプロジェクトなのかという意見があったが、住んで良かったと思える安曇野をつかって、それを来た人にも体験してもらおうということではないか。

## 委員

- ・ コンセプトからいきなり沢山のプロジェクトが提示されており、未整理の中で優先順位をつけることができない。もっと絞り込んでどうか。

## 委員長

- ・ すでに取り組まれているものを、プロジェクトとして挙げているのは、今後は「安曇野暮らし」の取り組みとして、市としてもバックアップするということである。
- ・ 何に重点を置くか。「誰が」は整理し、取り組みの推進体制を検討する。

## 安曇野市

- ・ プラットフォームをつくるための仕組みを考えてほしい。
- ・ 安曇野は美術館や博物館が多いという特徴があるが、来訪者が満足できる作品を提供できていない。連携のための市ができることはあるか。仕組み、意見が欲しい。
- ・ 広域連携では、日本アルプス観光連盟があるが、どうあるべきか、アンケート中である。
- ・ 情報発信では、観光協会 HP の更新を検討している。Facebook の活用等も考えている。

## 副委員長

- ・ 皆で「夢」を持って明るく進んでいくことが必要である。
- ・ 安曇野は日本一になる資質がある。安曇野の良いイメージで観光客が来訪しているから、本当の努力をしていない。
- ・ 38プロジェクトがすぐに全て達成できたら、すごい安曇野になってしまうので、焦らず積み上げていくことが大切。「焦っている」のは今日のお金が欲しいからであるが、焦るとお客様が察して逃げていく。余裕を持つことが大切である。